



## CHAPTER 36

# 電子メール プロキシ

電子メール プロキシを設定すると、リモート電子メール機能をクライアントレス SSL VPN のユーザに拡張できます。ユーザが電子メール プロキシ経由で電子メール セッションを試行すると、電子メール クライアントが SSL プロトコルを使用してトンネルを確立します。

電子メール プロキシ プロトコルは次のとおりです。

### POP3S

POP3S は、クライアントレス SSL VPN がサポートする電子メール プロキシの 1 つです。デフォルトでは、セキュリティ アプライアンスがポート 995 をリッスンし、ポート 995 または設定されたポートとの接続が自動的に許可されます。POP3 プロキシは、SSL 接続だけをそのポートで許可します。SSL トンネルが確立された後に POP3 プロトコルが開始され、認証が行われます。POP3S は、電子メール 受信用のプロトコルです。

### IMAP4S

IMAP4S は、クライアントレス SSL VPN がサポートする電子メール プロキシの 1 つです。デフォルトでは、セキュリティ アプライアンスがポート 993 をリッスンし、ポート 993 または設定されたポートとの接続が自動的に許可されます。IMAP4S プロキシは、SSL 接続だけをそのポートで許可します。SSL トンネルが確立された後に IMAP4S プロトコルが開始され、認証が行われます。IMAP4S は、電子メール 受信用のプロトコルです。

### SMTPS

SMTPS は、クライアントレス SSL VPN がサポートする電子メール プロキシの 1 つです。デフォルトでは、セキュリティ アプライアンスがポート 988 をリッスンし、ポート 988 または設定されたポートとの接続が自動的に許可されます。SMTPS プロキシは、SSL 接続だけをそのポートで許可します。SSL トンネルが確立された後に SMTPS プロトコルが開始され、認証が行われます。SMTPS は、電子メール 送信用のプロトコルです。

## 電子メール プロキシの設定

電子メール プロキシの設定は、次のタスクで構成されます。

- インターフェイスで電子メール プロキシをイネーブルにする。
- 電子メール プロキシ用のデフォルト サーバを設定する。
- AAA サーバグループとデフォルトのグループ ポリシーを設定する。
- デリミタを設定する。

また、電子メール プロキシを設定するに当たっては、次の要件があります。

- 電子メール プロキシを経由してローカルとリモートの両方から電子メールにアクセスするユーザは、電子メールプログラムで、ローカル アクセス用とリモート アクセス用に別々の電子メールアドレスが必要です。
- 電子メール プロキシセッションでユーザが認証される必要があります。

## AAA

このパネルには、3 つのタブがあります。

- [\[POP3S\] タブ](#)
- [\[IMAP4S\] タブ](#)
- [\[SMTPS\] タブ](#)

### モード

次の表は、この機能を使用できるモードを示したものです。

| ファイアウォール モード |    | セキュリティ コンテキスト |            |      |
|--------------|----|---------------|------------|------|
|              |    |               | マルチ        |      |
|              |    |               | コンテキ<br>スト | システム |
| ルーテッド        | 透過 | シングル          | —          | —    |
| •            | —  | •             | —          | —    |

## [POP3S] タブ

POP3S AAA パネルでは、AAA サーバ グループを関連付け、POP3S セッションに適用するデフォルトのグループ ポリシーを設定します。

### フィールド

- **[AAA server groups]**: [AAA Server Groups] パネル ([Configuration] > [Features] > [Properties] > [AAA Setup] > [AAA Server Groups]) に移動する場合にクリックします。ここでは、AAA サーバ グループを追加または編集できます。
- **[group policy]**: [Group Policy] パネル ([Configuration] > [Features] > [VPN] > [General] > [Group Policy]) に移動する場合にクリックします。ここでは、グループ ポリシーを追加または編集できます。
- **[Authentication Server Group]**: POP3S ユーザ認証用の認証サーバ グループを選択します。デフォルトでは、認証サーバが設定されていません。AAA を POP3S 用の認証方式として設定した場合には ([Configuration] > [Features AAA] > [VPN] > [E-Mail Proxy] > [Authentication] パネル)、AAA サーバを設定してここで選択しないと、常に認証に失敗します。
- **[Authorization Server Group]**: POP3S ユーザ許可用の許可サーバ グループを選択します。デフォルトでは、許可サーバが設定されていません。
- **[Accounting Server Group]**: POP3S ユーザ アカウンティング用のアカウンティングサーバ グループを選択します。デフォルトでは、アカウンティングサーバが設定されていません。

- [Default Group Policy] : AAA が CLASSID 属性を返さない場合に POP3S ユーザに適用するグループ ポリシーを選択します。長さは、4 ~ 15 文字の英数字です。デフォルトのグループ ポリシーを指定しなかった場合と、CLASSID が存在しない場合には、セキュリティ アプライアンスがセッションを確立できません。
- [Authorization Settings] : セキュリティ アプライアンスが POP3S 許可のために認識するユーザ名の値を設定できるようにします。この名前は、デジタル証明書を使用して認証し、LDAP または RADIUS 許可を必要とする POP3S ユーザに適用されます。
  - [User the entire DN as the username] : POP3S 許可用の認定者名を使用する場合に選択します。
  - [Specify individual DN fields as the username] : ユーザ許可用に特定の DN フィールドを指定する場合に選択します。
 

[DN] フィールドは、プライマリとセカンダリの 2 つを選択できます。たとえば、EA を選択した場合には、ユーザは電子メールアドレスによって認証されます。John Doe という一般名 (CN) と johndoe@cisco.com という電子メールアドレスを持つユーザは、John Doe または johndoe として認証されません。彼は johndoe@cisco.com として認証される必要があります。EA および O を選択した場合、John Does は johndoe@cisco.com および Cisco Systems, Inc. として認証される必要があります。
  - [Primary DN Field] : POP3S 許可用に設定するプライマリ [DN] フィールドを選択します。デフォルトの設定は CN です。オプションには、次のものが含まれます。

| DN フィールド                      | 定義   |
|-------------------------------|--|
| Country (C)                   | 2 文字の国名略語。国名コードは、ISO 3166 国名略語に準拠しています。                |
| Common Name (CN)              | ユーザ、システム、その他のエンティティの名前。これは、ID 階層の最下位 (最も固有性の高い) レベルです。 |
| DN Qualifier (DNQ)            | 特定の DN 属性。   |
| E-mail Address (EA)           | 証明書を所有するユーザ、システム、またはエンティティの電子メールアドレス。                  |
| Generational Qualifier (GENQ) | Jr.、Sr.、または III などの世代修飾子。                              |
| Given Name (GN)               | 証明書所有者の名前 (名)。   |
| Initials (I)                  | 証明書所有者の姓と名の最初の文字。                                      |
| Locality (L)                  | 組織が所在する市町村。  |
| Name (N)                      | 証明書所有者の名前。   |
| Organization (O)              | 会社、団体、機関、協会、その他のエンティティの名前。                             |
| Organizational Unit (OU)      | 組織内のサブグループ。  |
| Serial Number (SER)           | 証明書のシリアル番号。  |
| Surname (SN)                  | 証明書所有者の姓。  |
| State/Province (S/P)          | 組織が所在する州や県。  |
| Title (T)                     | 証明書所有者の役職 (Dr. など)。                                    |
| User ID (UID)                 | 証明書所有者の ID 番号。   |

- [Secondary DN Field] : (任意) POP3S 許可用に設定するセカンダリ DN フィールドを選択します。デフォルトの設定は OU です。オプションには、上記の表に記載されているものすべてに加えて、[None] があります。これは、セカンダリ フィールドを指定しない場合に選択します。

## モード

次の表は、この機能を使用できるモードを示したものです。

| ファイアウォール モード |    | セキュリティ コンテキスト |        |      |
|--------------|----|---------------|--------|------|
| ルーテッド        | 透過 | シングル          | マルチ    |      |
|              |    |               | コンテキスト | システム |
| •            | —  | •             | —      | —    |

## [IMAP4S] タブ

IMAP4S AAA パネルでは、AAA サーバ グループを関連付け、IMAP4S セッションに適用するデフォルトのグループ ポリシーを設定します。

### フィールド

- [AAA server groups] : [AAA Server Groups] パネル ([Configuration] > [Features] > [Properties] > [AAA Setup] > [AAA Server Groups]) に移動する場合にクリックします。ここでは、AAA サーバ グループを追加または編集できます。
- [group policy] : [Group Policy] パネル ([Configuration] > [Features] > [VPN] > [General] > [Group Policy]) に移動する場合にクリックします。ここでは、グループ ポリシーを追加または編集できます。
- [Authentication Server Group] : IMAP4S ユーザ認証用の認証サーバ グループを選択します。デフォルトでは、認証サーバが設定されていません。AAA を IMAP4S 用の認証方式として設定した場合には ([Configuration] > [Features AAA] > [VPN] > [E-Mail Proxy] > [Authentication] パネル)、AAA サーバを設定してここで選択しないと、常に認証に失敗します。
- [Authorization Server Group] : IMAP4S ユーザ許可用の許可サーバ グループを選択します。デフォルトでは、許可サーバが設定されていません。
- [Accounting Server Group] : IMAP4S ユーザ アカウンティング用のアカウンティング サーバ グループを選択します。デフォルトでは、アカウンティング サーバが設定されていません。
- [Default Group Policy] : AAA が CLASSID 属性を返さない場合に IMAP4S ユーザに適用するグループ ポリシーを選択します。デフォルトのグループ ポリシーを指定しなかった場合と、CLASSID が存在しない場合には、セキュリティ アプライアンスがセッションを確立できません。
- [Authorization Settings] : セキュリティ アプライアンスが IMAP4S 許可のために認識するユーザ名の値を設定できるようにします。この名前は、デジタル証明書を使用して認証し、LDAP または RADIUS 許可を必要とする IMAP4S ユーザに適用されます。
  - [User the entire DN as the username]: IMAP4S 許可用の完全修飾ドメイン名を使用する場合に選択します。
  - [Specify individual DN fields as the username] : ユーザ許可用に特定の DN フィールドを指定する場合に選択します。

[DN] フィールドは、プライマリとセカンダリの 2 つを選択できます。たとえば、EA を選択した場合には、ユーザは電子メールアドレスによって認証されます。John Doe という一般名 (CN) と johndoe@cisco.com という電子メールアドレスを持つユーザは、John Doe または johndoe として認証されません。彼は johndoe@cisco.com として認証される必要があります。EA および O を選択した場合、John Does は johndoe@cisco.com および Cisco Systems, Inc. として認証される必要があります。

- [Primary DN Field] : IMAP4S 許可用に設定するプライマリ DN フィールドを選択します。デフォルトの設定は CN です。オプションには、次のものが含まれます。

| DN フィールド                      | 定義   |
|-------------------------------|--|
| Country (C)                   | 2 文字の国名略語。国名コードは、ISO 3166 国名略語に準拠しています。              |
| Common Name (CN)              | ユーザ、システム、その他のエンティティの名前。これは、ID 階層の最下位（最も固有性の高い）レベルです。 |
| DN Qualifier (DNQ)            | 特定の DN 属性。   |
| E-mail Address (EA)           | 証明書を所有するユーザ、システム、またはエンティティの電子メールアドレス。                |
| Generational Qualifier (GENQ) | Jr.、Sr.、または III などの世代修飾子。                            |
| Given Name (GN)               | 証明書所有者の名前（名）。  |
| Initials (I)                  | 証明書所有者の姓と名の最初の文字。                                    |
| Locality (L)                  | 組織が存在する市町村。  |
| Name (N)                      | 証明書所有者の名前。   |
| Organization (O)              | 会社、団体、機関、協会、その他のエンティティの名前。                           |
| Organizational Unit (OU)      | 組織内のサブグループ。  |
| Serial Number (SER)           | 証明書のシリアル番号。  |
| Surname (SN)                  | 証明書所有者の姓。  |
| State/Province (S/P)          | 組織が存在する州や県。  |
| Title (T)                     | 証明書所有者の役職（Dr. など）。                                   |
| User ID (UID)                 | 証明書所有者の ID 番号。                                       |

- [Secondary DN Field] : (任意) IMAP4S 許可用に設定するセカンダリ DN フィールドを選択します。デフォルトの設定は OU です。オプションには、上記の表に記載されているものすべてに加えて、[None] があります。これは、セカンダリ フィールドを指定しない場合に選択します。

### モード

次の表は、この機能を使用できるモードを示したものです。

| ファイアウォール モード |    | セキュリティ コンテキスト |        |      |
|--------------|----|---------------|--------|------|
|              |    |               | マルチ    |      |
|              |    |               | コンテキスト | システム |
| ルーテッド        | 透過 | シングル          | ト      |      |
| •            | —  | •             | —      | —    |

## [SMTPS] タブ

SMTPS AAA パネルでは、AAA サーバ グループを関連付け、SMTPS セッションに適用するデフォルトのグループ ポリシーを設定します。

## フィールド

- [AAA server groups] : [AAA Server Groups] パネル ([Configuration] > [Features] > [Properties] > [AAA Setup] > [AAA Server Groups]) に移動する場合にクリックします。ここでは、AAA サーバグループを追加または編集できます。
- [group policy] : [Group Policy] パネル ([Configuration] > [Features] > [VPN] > [General] > [Group Policy]) に移動する場合にクリックします。ここでは、グループポリシーを追加または編集できます。
- [Authentication Server Group] : SMTPS ユーザ認証用の認証サーバグループを選択します。デフォルトでは、認証サーバが設定されていません。AAA を SMTPS 用の認証方式として設定した場合には ([Configuration] > [Features AAA] > [VPN] > [E-Mail Proxy] > [Authentication] パネル)、AAA サーバを設定してここで選択しないと、常に認証に失敗します。
- [Authorization Server Group] : SMTPS ユーザ許可用の許可サーバグループを選択します。デフォルトでは、許可サーバが設定されていません。
- [Accounting Server Group] : SMTPS ユーザ アカウンティング用のアカウンティングサーバグループを選択します。デフォルトでは、アカウンティングサーバが設定されていません。
- [Default Group Policy] : AAA が CLASSID 属性を返さない場合に SMTPS ユーザに適用するグループポリシーを選択します。デフォルトのグループポリシーを指定しなかった場合と、CLASSID が存在しない場合には、セキュリティ アプライアンスがセッションを確立できません。
- [Authorization Settings] : セキュリティ アプライアンスが SMTPS 許可のために認識するユーザ名の値を設定できるようにします。この名前は、デジタル証明書を使用して認証し、LDAP または RADIUS 許可を必要とする SMTPS ユーザに適用されます。
  - [User the entire DN as the username] : SMTPS 許可用の完全修飾ドメイン名を使用する場合に選択します。
  - [Specify individual DN fields as the username] : ユーザ許可用に特定の DN フィールドを指定する場合に選択します。

[DN] フィールドは、プライマリとセカンダリの 2 つを選択できます。たとえば、EA を選択した場合には、ユーザは電子メールアドレスによって認証されます。John Doe という一般名 (CN) と johndoe@cisco.com という電子メールアドレスを持つユーザは、John Doe または johndoe として認証されません。彼は johndoe@cisco.com として認証される必要があります。EA および O を選択した場合、John Does は johndoe@cisco.com および Cisco Systems, Inc. として認証される必要があります。

  - [Primary DN Field] : SMTPS 許可用に設定するプライマリ DN フィールドを選択します。デフォルトの設定は CN です。オプションには、次のものが含まれます。

## DN フィールド

## 定義

|                               |  |
|-------------------------------|--|
| Country (C)                   | 2 文字の国名略語。国名コードは、ISO 3166 国名略語に準拠しています。                |
| Common Name (CN)              | ユーザ、システム、その他のエンティティの名前。これは、ID 階層の最下位 (最も固有性の高い) レベルです。 |
| DN Qualifier (DNQ)            | 特定の DN 属性。   |
| E-mail Address (EA)           | 証明書を所有するユーザ、システム、またはエンティティの電子メールアドレス。                  |
| Generational Qualifier (GENQ) | Jr.、Sr.、または III などの世代修飾子。                              |
| Given Name (GN)               | 証明書所有者の名前 (名)。   |
| Initials (I)                  | 証明書所有者の姓と名の最初の文字。                                      |
| Locality (L)                  | 組織が存在する市町村。  |

| DN フィールド                 | 定義                         |
|--------------------------|----------------------------|
| Name (N)                 | 証明書所有者の名前。                 |
| Organization (O)         | 会社、団体、機関、協会、その他のエンティティの名前。 |
| Organizational Unit (OU) | 組織内のサブグループ。                |
| Serial Number (SER)      | 証明書のシリアル番号。                |
| Surname (SN)             | 証明書所有者の姓。                  |
| State/Province (S/P)     | 組織が所在する州や県。                |
| Title (T)                | 証明書所有者の役職 (Dr. など)。        |
| User ID (UID)            | 証明書所有者の ID 番号。             |

- [Secondary DN Field] : (任意) SMTPS 許可用に設定するセカンダリ DN フィールドを選択します。デフォルトの設定は OU です。オプションには、上記の表に記載されているものすべてに加えて、[None] があります。これは、セカンダリ フィールドを指定しない場合に選択します。

### モード

次の表は、この機能を使用できるモードを示したものです。

| ファイアウォール モード |    | セキュリティ コンテキスト |        |      |
|--------------|----|---------------|--------|------|
|              |    |               | マルチ    |      |
|              |    |               | コンテキスト |      |
| ルーテッド        | 透過 | シングル          | ト      | システム |
| •            | —  | •             | —      | —    |

## アクセス

[E-mail Proxy Access] 画面では、電子メール プロキシを設定するインターフェイスを識別できます。電子メール プロキシは、個々のインターフェイスで設定および編集できます。また、1 つのインターフェイスで電子メール プロキシを設定および編集すれば、その設定をすべてのインターフェイスに適用できます。管理専用のインターフェイスやサブインターフェイスに対して電子メール プロキシは設定できません。

### フィールド

- [Interface] : 設定されているすべてのインターフェイスの名前を表示します。
- [POP3S Enabled] : そのインターフェイスで POP3S がイネーブルかどうかを示します。
- [IMAP4s Enabled] : そのインターフェイスで IMAP4S がイネーブルかどうかを示します。
- [SMTPS Enabled] : そのインターフェイスで SMTPS がイネーブルかどうかを示します。
- [Edit] : 強調表示されているインターフェイスの電子メール プロキシ設定を編集する場合にクリックします。

### モード

次の表は、この機能を使用できるモードを示したものです。

| ファイアウォール モード |    | セキュリティ コンテキスト |        |      |
|--------------|----|---------------|--------|------|
| ルーテッド        | 透過 | シングル          | マルチ    |      |
|              |    |               | コンテキスト | システム |
| •            | —  | •             | —      | —    |

## Edit E-Mail Proxy Access

[E-mail Proxy Access] 画面では、電子メール プロキシを設定するインターフェイスを識別できます。電子メール プロキシは、個々のインターフェイスで設定できます。また、1 つのインターフェイスで電子メール プロキシを設定すると、その設定をすべてのインターフェイスに適用できます。

### フィールド

- [Interface] : 選択されたインターフェイスの名前を表示します。
- [POP3S Enabled] : そのインターフェイスで POP3S をイネーブルにする場合に選択します。
- [IMAP4S Enabled] : そのインターフェイスで IMAP4S をイネーブルにする場合に選択します。
- [SMTPS Enabled] : そのインターフェイスで SMTPS をイネーブルにする場合に選択します。
- [Apply to all interface] : 現在のインターフェイスの設定を、設定されているすべてのインターフェイスに適用する場合に選択します。

### モード

次の表は、この機能を使用できるモードを示したものです。

| ファイアウォール モード |    | セキュリティ コンテキスト |        |      |
|--------------|----|---------------|--------|------|
| ルーテッド        | 透過 | シングル          | マルチ    |      |
|              |    |               | コンテキスト | システム |
| •            | —  | •             | —      | —    |

## Authentication

このパネルでは、電子メール プロキシ セッションの認証方式を設定できます。

### フィールド

[POP3S/IMAP4S/SMTPS Authentication] : 各種電子メール プロキシの認証方式を設定します。複数の認証方式を選択できます。

- [AAA] : AAA 認証を必須にする場合に選択します。このオプションを使用するには、AAA サーバを設定する必要があります。ユーザは、ユーザ名、サーバ、およびパスワードを入力します。ユーザは、VPN ユーザ名と電子メール ユーザ名の両方を入力する必要があります。そのとき、互いのユーザ名が異なる場合にだけ、VPN 名デリミタによって区切ります。
- [Certificate] : 現在のセキュリティ アプライアンス ソフトウェア リリースでは、電子メール プロキシに対して証明書認証が機能しません。



- [Piggyback HTTPS] : ピギーバック認証を必須にする場合に選択します。

この認証スキームは、ユーザがすでにクライアントレス SSL VPN セッションを確立していることを必須とします。そのため、ユーザは電子メール ユーザ名だけを入力します。パスワードは不要です。ユーザは、VPN ユーザ名と電子メール ユーザ名の両方を入力する必要があります。そのとき、互いのユーザ名が異なる場合にだけ、VPN 名デリミタによって区切ります。

SMTPS 電子メールは、最も頻繁にピギーバックを使用します。ほとんどの SMTP サーバが、ユーザがログインすることを許可していないためです。



(注) IMAP は、同時ユーザ数によって制限されない多数のセッションを生成しますが、ユーザ名に対して許可されている同時ログインの数を数えません。IMAP セッションの数がこの最大値を超え、クライアントレス SSL VPN 接続の有効期限が切れた場合には、その後ユーザが新しい接続を確立できません。以下の解決策があります。

- ユーザが IMAP アプリケーションを終了してセキュリティ アプライアンス とのセッションをクリアしてから、新しいクライアントレス SSL VPN 接続を確立する。
- 管理者が IMAP ユーザの同時ログイン数を増やす ([Configuration] > [Features] > [VPN] > [General] > [Group Policy] > [Edit Group Policy] > [General])。
- 電子メール プロキシの HTTPS/ピギーバック認証をディセーブルにする。

- [Mailhost] : (SMTPS のみ) メールホスト認証を必須にする場合に選択します。POP3S と IMAP4S は必ずメールホスト認証を実行するため、このオプションは、SMTPS の場合にだけ表示されます。この認証方式では、ユーザの電子メール ユーザ名、サーバ、およびパスワードが必要です。

### モード

次の表は、この機能を使用できるモードを示したものです。

| ファイアウォール モード |    | セキュリティ コンテキスト |        |      |
|--------------|----|---------------|--------|------|
| ルーテッド        | 透過 | シングル          | マルチ    |      |
|              |    |               | コンテキスト | システム |
| •            | —  | •             | —      | —    |

## Default Servers

このパネルでは、セキュリティ アプライアンスのプロキシ サーバを識別できます。適切なプロキシ サーバの IP アドレスとポートを入力します。

### フィールド

- [POP3S/IMAP4S/SMTPS Default Server] : 電子メール プロキシのデフォルト サーバ、ポート、および非認証セッション制限を設定します。
- [Name or IP Address] : デフォルトの電子メール プロキシ サーバの DNS 名または IP アドレスを入力します。

- [Port] : セキュリティ アプライアンスがプロキシ トラフィックをリッスンするポート番号を入力します。設定されたポートに対する接続が自動的に許可されます。電子メール プロキシは、SSL 接続だけをこのポートで許可します。SSL トンネルが確立された後に電子メール プロキシ プロトコルが開始され、認証が行われます。

POP3S のデフォルトのポートは 995 で、IMAP4S は 993、SMTPS は 988 です。

- [Enable non-authenticated session limit] : 非認証電子メール プロキシ セッションの数を制限する場合に選択します。

電子メール プロキシ接続には、3 つの状態があります。

1. 新規に電子メール接続が確立されると、「認証されていない」状態になります。
2. この接続でユーザ名が提示されると、「認証中」状態になります。
3. セキュリティ アプライアンスが接続を認証すると、「認証済み」状態になります。

この機能により、認証プロセスでのセッションの制限を設定でき、それによって DOS 攻撃を防ぎます。新しいセッションが、設定された制限を超えると、セキュリティ アプライアンスが最も古い非認証接続を終了します。非認証接続が存在しない場合には、最も古い認証接続が終了します。それによって認証済みのセッションが終了することはありません。

## モード

次の表は、この機能を使用できるモードを示したものです。

| ファイアウォール モード |    | セキュリティ コンテキスト |            |      |
|--------------|----|---------------|------------|------|
|              |    |               | マルチ        |      |
|              |    |               | コンテキ<br>スト | システム |
| ルーテッド        | 透過 | シングル          | —          | —    |
| •            | —  | •             | —          | —    |

# Delimiters

このパネルでは、電子メール プロキシ認証で使用するユーザ名/パスワード デリミタとサーバ デリミタを設定します。

## フィールド

- [POP3S/IMAP4S/SMTPS Delimiters] : 各種電子メール プロキシのユーザ名/パスワード デリミタとサーバ デリミタを設定します。
  - [Username/Password Delimiter] : VPN ユーザ名と電子メール ユーザ名を区切るためのデリミタを選択します。電子メール プロキシで AAA 認証を使用する場合、および VPN ユーザ名と電子メール ユーザ名が異なる場合に両方のユーザ名を使用します。ユーザは、両方のユーザ名を入力し、ここで設定したデリミタで区切ります。電子メール プロキシ セッションにログインする場合には、電子メール サーバ名も入力します。



(注) クライアントレス SSL VPN 電子メール プロキシ ユーザのパスワードに、デリミタとして使用されている文字を含めることはできません。

- [Server Delimiter] : ユーザ名と電子メール サーバ名を区切るためのデリミタを選択します。このデリミタは、VPN 名デリミタとは別にする必要があります。電子メール プロキシセッションにログインする場合には、ユーザ名フィールドにユーザ名とサーバの両方を入力します。

たとえば、VPN 名デリミタとして : を使用し、サーバデリミタとして @ を使用する場合には、電子メール プロキシ経由で電子メール プログラムにログインするときに、`vpn_username:e-mail_username@server` という形式でユーザ名を入力します。

### モード

次の表は、この機能を使用できるモードを示したものです。

| ファイアウォール モード |    | セキュリティ コンテキスト |        |      |
|--------------|----|---------------|--------|------|
| ルーテッド        | 透過 | シングル          | マルチ    |      |
|              |    |               | コンテキスト | システム |
| •            | —  | •             | —      | —    |

